



11月23日まで博物館で開催していた企画展「永島岸翠とその時代」では、江戸時代後期に活動していた上ノ郷村（現神ノ郷町）出身の画家・永島岸翠（ながしまが んすい）の生誕200年を記念して、その作品を展覧しました。あわせて、岸翠もたしなんでいた俳諧の資料を通じて、岸翠と近い人々を取り上げ、その中で寺子屋の師匠をしていた永島藤十郎治重と竹内半右衛門も紹介しました。

明治5年8月に学制が公布され、近代教育制度が始まる以前の庶民の教育機関は寺子屋でした。愛知県教育委員会『愛知県寺子屋一覽（愛知県教育史 古代・中世・近世編 別冊）』によれば、蒲郡市域には、およそ80カ所の寺子屋があり、その多くは19世紀中頃の天保期以降に開設されました。

蒲郡の寺子屋と筆子塚



永島藤十郎治重の筆子塚
（神ノ郷町）

「寺」の字が示すように、市域の半数以上の寺院には寺子屋が設けられており、僧侶がその師匠を務めていました。それ以外にも、医者や神官、武士、旧家の当主などの知識人層が師匠を務めた寺子屋がありました。永島藤十郎治重や竹内半右衛門は、上ノ郷村の庄屋を務めながら、寺子屋で10数人の子どもたちに教えていました。

子どもたちは7歳前後で寺子屋に入り、筆子と呼ばれました。指導を受けるのは3〜5年ほどであったようですが、学習期間を終えても、寺子屋の師匠と筆子の間には生涯師弟関係が続く深い絆がありました。師匠が亡くなると、故人を偲ぶ筆子たちによって墓や塔が建立されました。そのことを示す「筆子中」の文字が永島藤十郎治重や竹内半右衛門の墓石にも刻まれています。このような墓は「筆子塚」と呼ばれており、市域でも40基あまり確認されています。

知は新世界への道しるべ

宵や夜明けの星空を、国際宇宙ステーション（ISS）がこうこうと輝きながら横切ることがあります。ちょうど今、日本人宇宙飛行士の油井亀美也さんが長期滞在されています。あの光の中に人がいる、と思いつながら見上げると、ISSと私たちの間には薄い空気以外何も無いのだということがあらためて胸に迫り、夜空が一味違って見えるから不思議です。

科学館には、約400万年前の足跡の化石レプリカが展示されています。人類最古の2足歩行の証拠とされているもので、数々の分析から、火山から逃げる途中の家族のものと考えられています。そうと



視点かわれば品変わる…?



※こ(んな感じ)のTシャツは実在します。…お気に入りです。

知って見直すと、何の変哲もないはだしの跡に、古代の風景が浮かび上がってきます。

時には趣味の違う友人知人と、お出かけしてみてもいいかがでしょう。同じ景色の前にながら、もしかしたら違う世界を見つめていくかも…? :

生命の海から

館長 山中敦子

生命の海科学館
☎66・1717